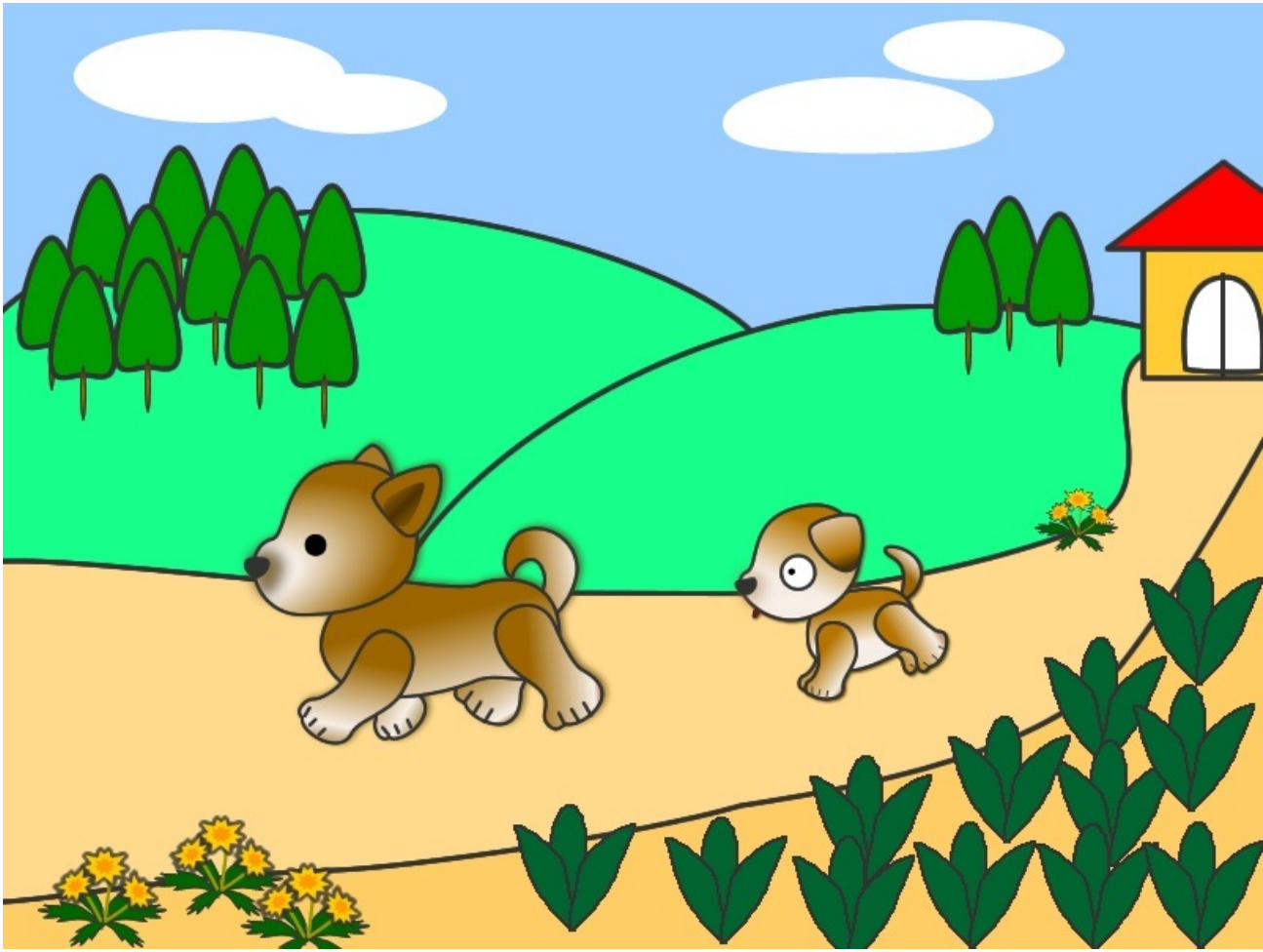


ポッケ



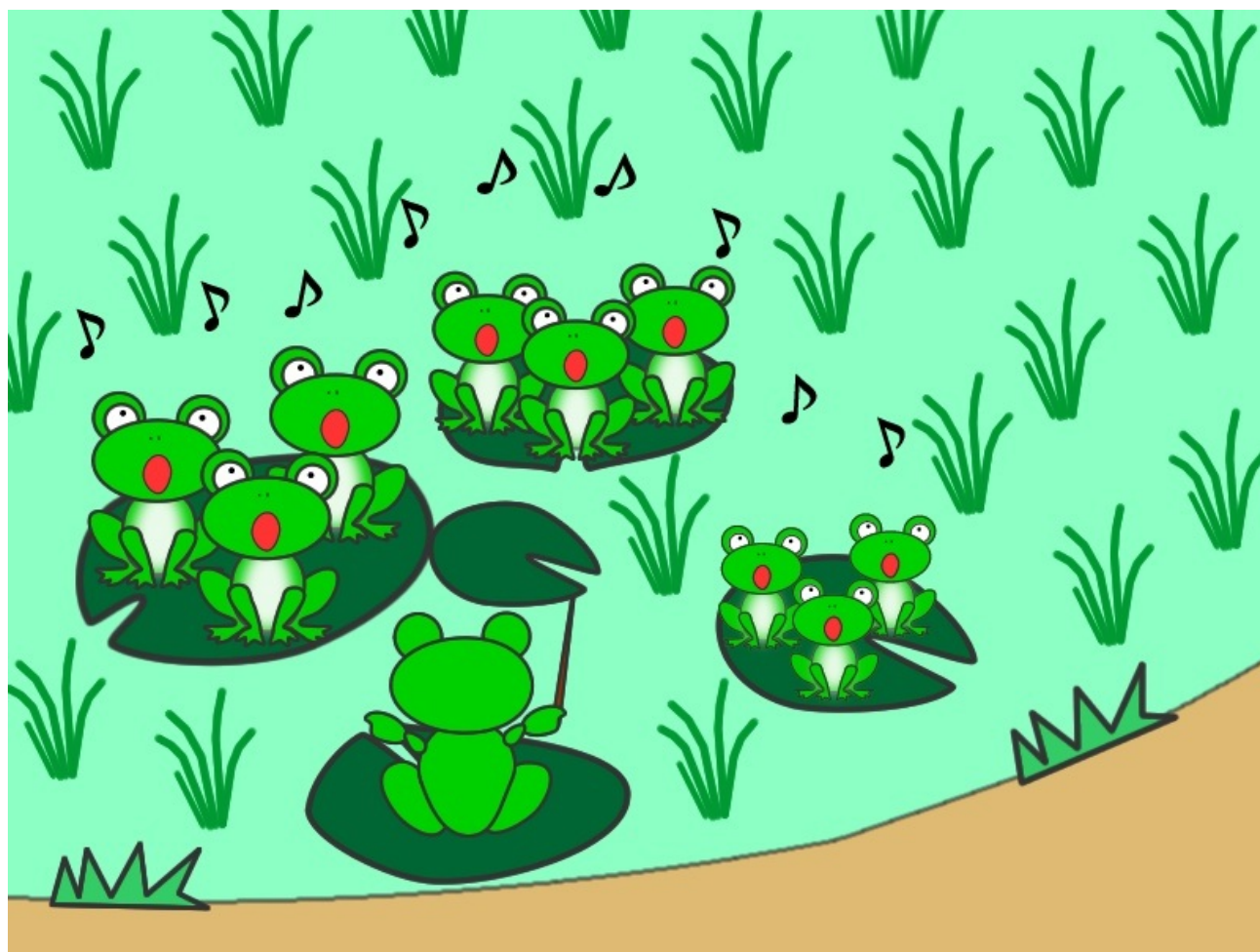
## おでかけ



こいぬのなまえは ポッケ  
うまれたとき ポケットに はいってしまうほど とても ちいさくて  
かわいかったので そのなまえがつきました

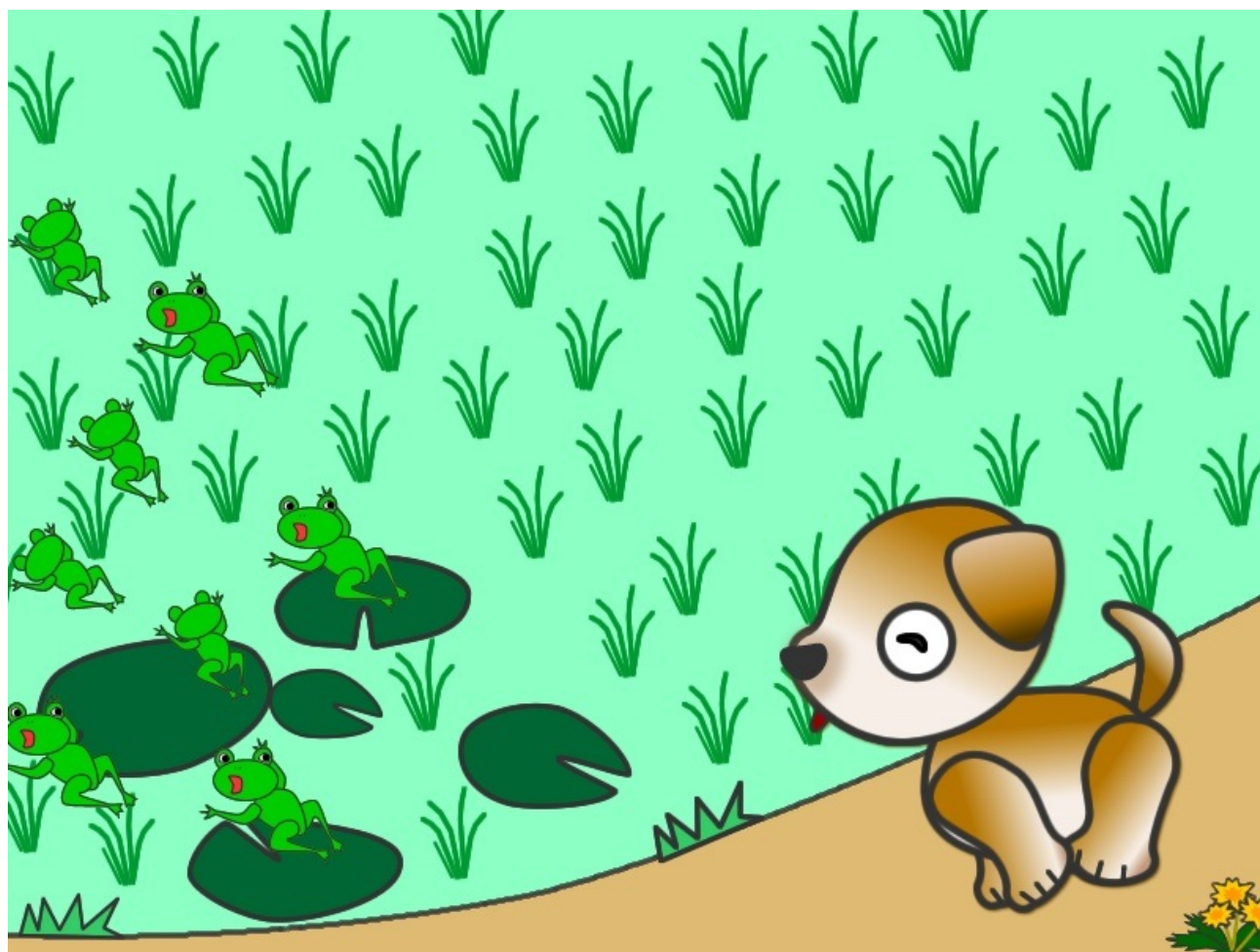
あるひ おかあさんといっしょに おとなりのクンクンのおうちに  
いくことに になりました  
のはらや はたけを あるいていきます

かえるのがっしょう



とちゅう かえるさんたちが うたったり とんだり はねたりして  
たのしそうに あそんでいる たんぼのそばに きました。

## あそぼうよ



ポッケは はじめてみる かえるさんたちと あそびたくて たまらなくなりました

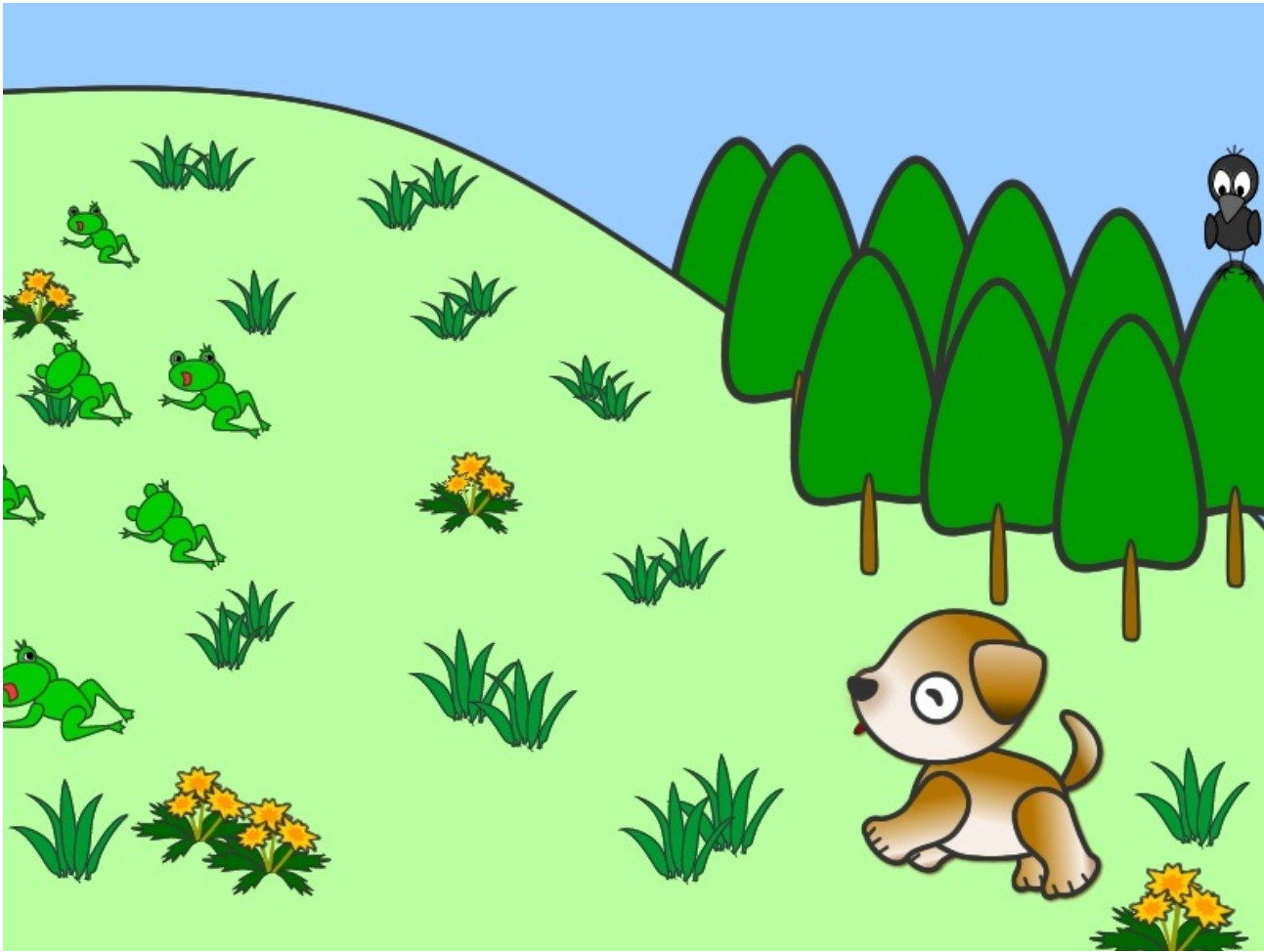
おかあさんのそばから はなれて かえるさんたちのほうへ はしっていきます

かえるたちは おおきなものが はしってくるので おおあわて

「かいじゅうだー にげろ にげろ！」



# にげろやピョンピョン



みんな あっちへピョンピョン こっちへピョンピョン

あれ なんでみんな にげるのかな

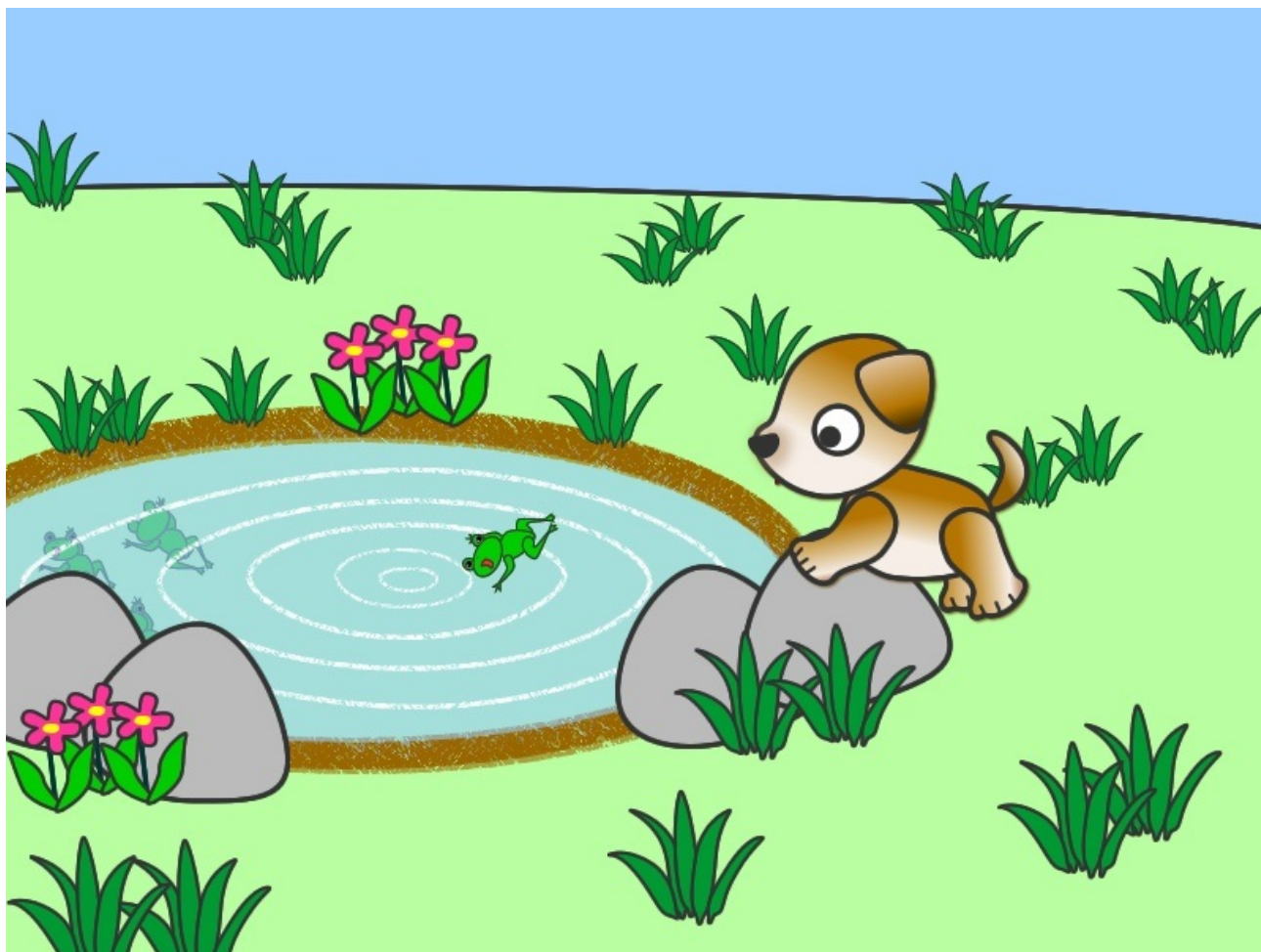
「ねえ ぼくも なかまにいれてよ いっしょにあそぼうよ」

ポッケはかえるさんたちの あとを おいかけました

「うわー まだ おいけてくる」

にげろや ピョンピョン にげろや ピョンピョン

いなくなっちゃった



ポッケもいっしょうけんめい はしって あとからついていきます

とうとう かえるさんたちは みんな みずのなかへ にげてしまい

ポッケには みえなくなっていました

あそんでくれない

---



みんな どうしてあそんで くれないのかな

ポッケはちょっとさびしくなって

「おかあさん みんな どうしてにげるの」と ききました

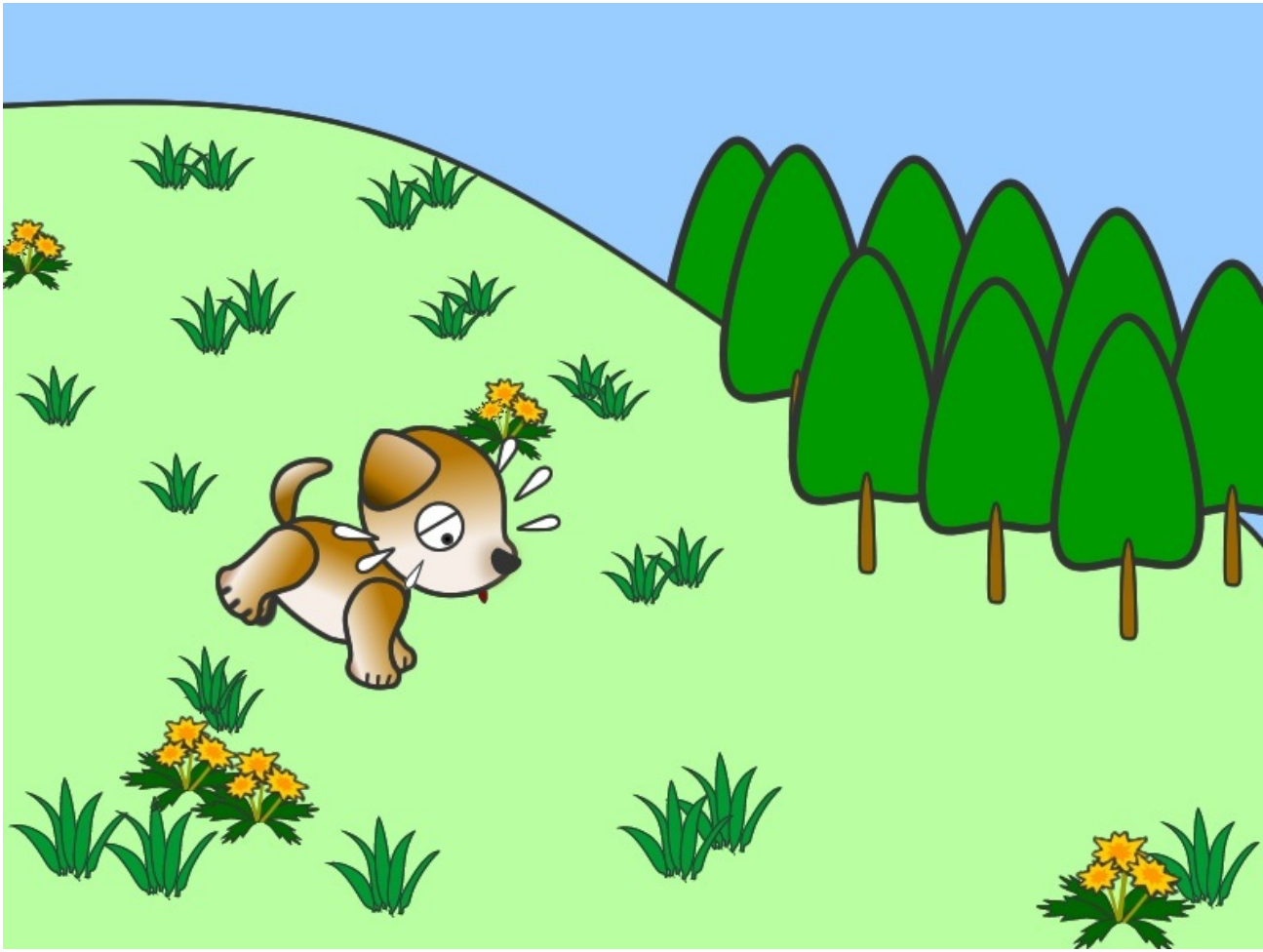
「あれ！おかあさんがいない」

ポッケがいっしょうけんめい かえるさんを

おいかけているあいだに おかあさんのところから

とっても とおく はなれてしまったのです

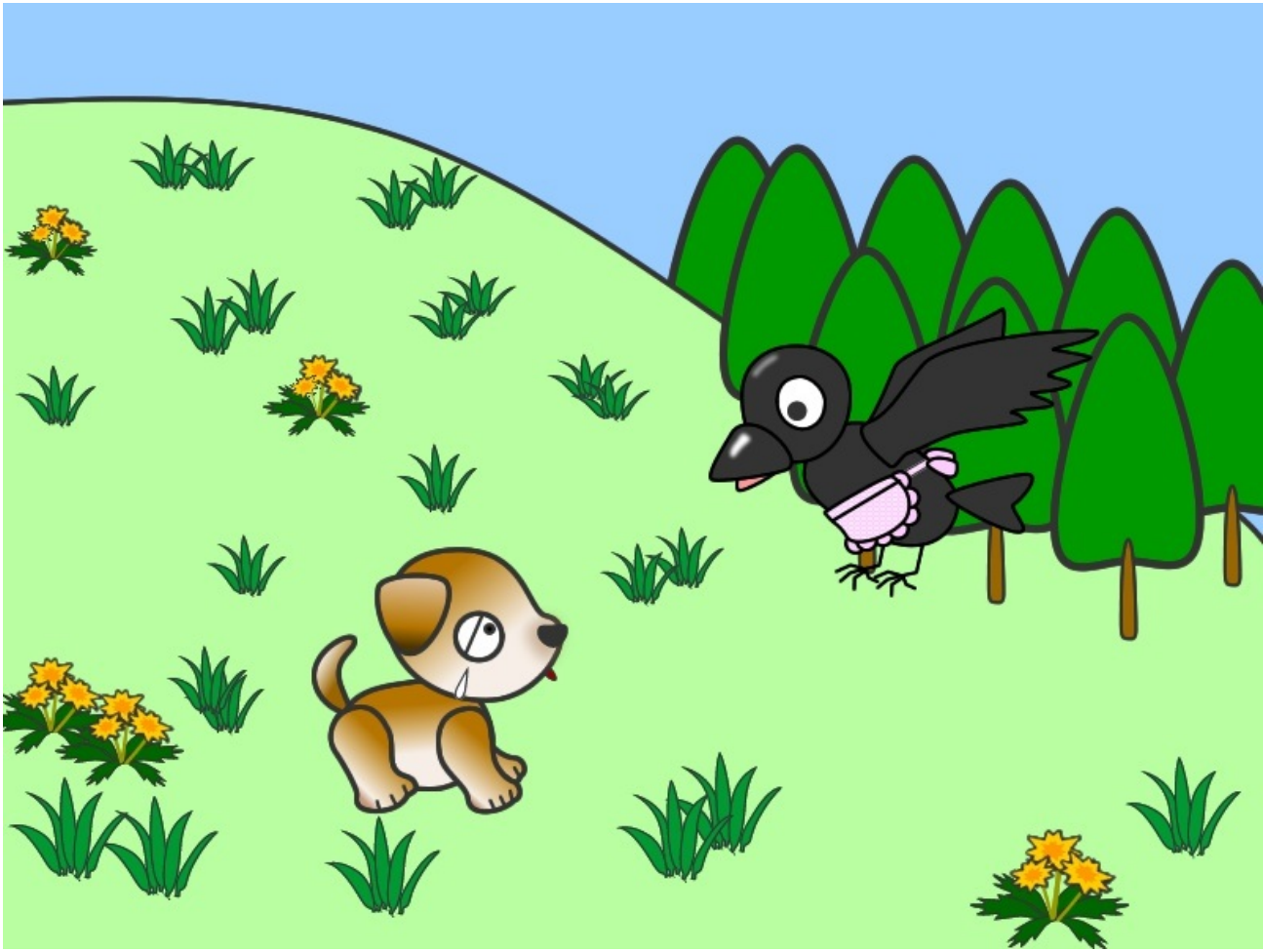
さあたいへん



さあ たいへん あっちをみても こっちをみても おかあさんはいません  
ポッケは はしって あっちかな こっちかな と さがしました  
でもやっぱり おかあさんを見つけることが できません  
ポッケはかなしくなって とうとう なきだして しまいました



## カラスのおばさん



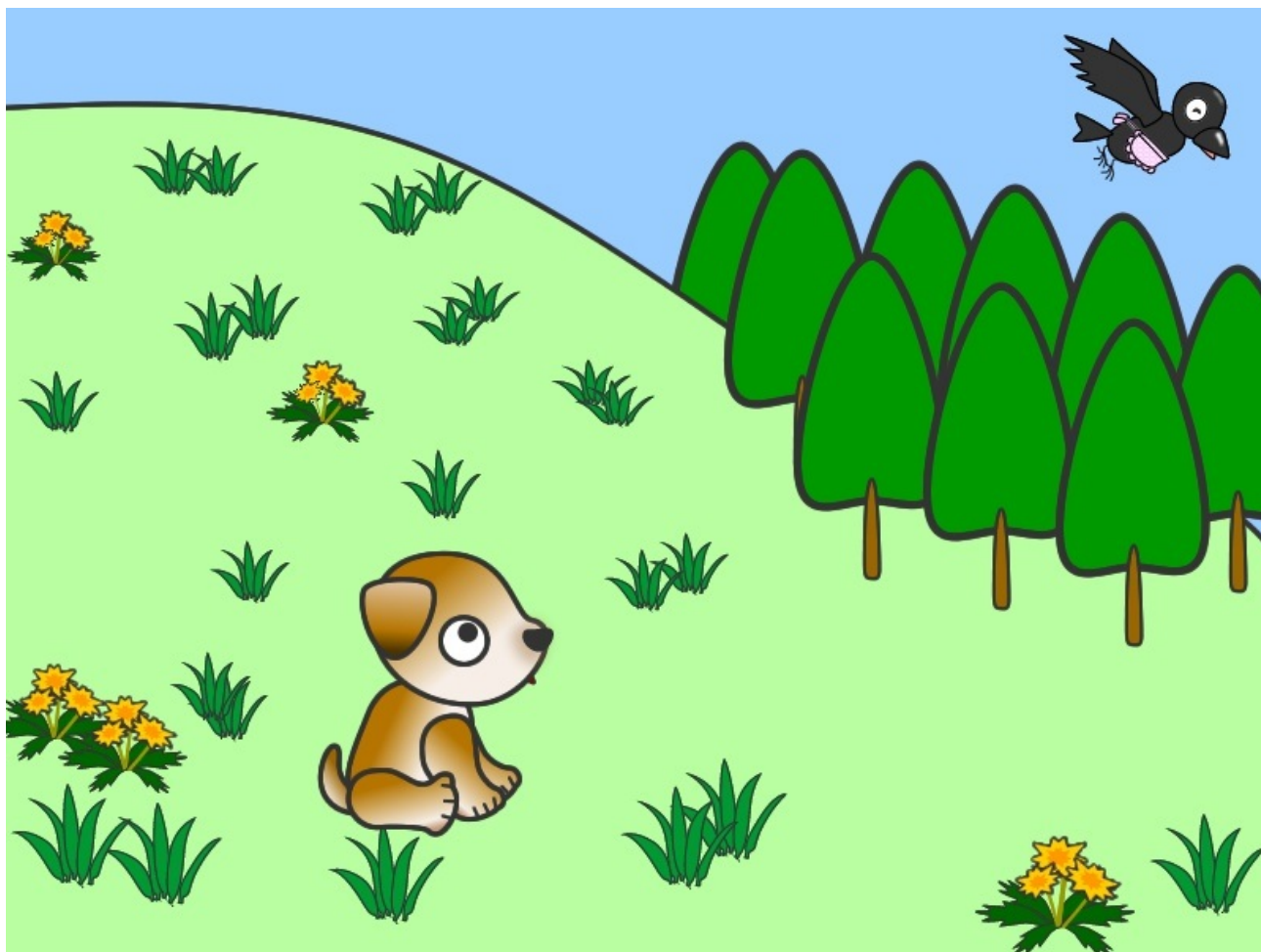
すると パタパタと ポッケのあたまのうえで おとがして  
めのまえに くろいものが おりてきました  
ポッケは びっくり

にげなきゃ と おもったとき 「にげなくてもいいのよ」と  
くろいものがいいました

「だーれ」ときくと 「わたしは からすのおばさんよ  
どうしてないてるの」と やさしいこえで カラスのおばさんがいいました

「おかあさんが いなくなっちゃったの」  
それからポッケは どうして おかあさんと はなれちゃったのかをはなしました

## うごいちゃだめよ



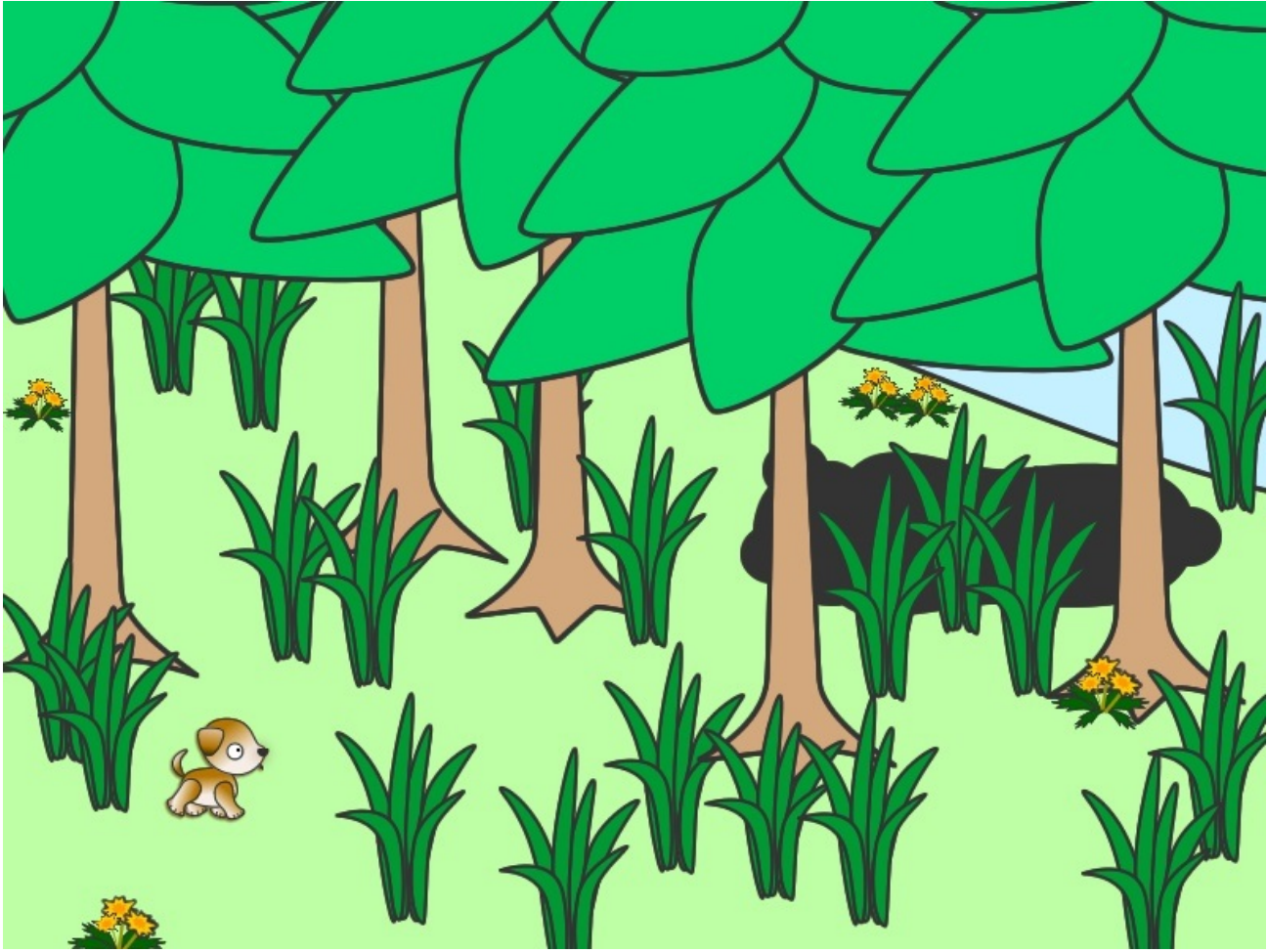
「あらあら それでないたのね わかったわ  
それじゃあ おばさんがおかあさんを さがしてあげるから  
ここをうごかないで ちゃんとまっててね」

ポッケはさびしいけど 「うん まってる」と へんじをすると

「いいわね うごいちゃだめよ」

そういつて カラスのおばさんは パタパタと そらのうえのほうへ  
とんでいって みえなくなっていました

## おおきなもの



ポッケはカラスのおばさんに いわれたとおりに うごかないで  
まっていました

しばらくすると もりのなかから ガサガサ ガサガサと おとが  
きこえてきました

なんだろう

ポッケは カラスのおばさんとのやくそくをわすれて いって見ました  
もりのなかへ たんけんです

おとのきこえるほうへ あるいていくと おおきな くろいものがありました

ポッケよりも ずーっとずーっと おおきなおおきなものです

なんだろう

---



なんだろう

ポッケは おそろおそろ ちかづいていきました

ちかくにいて さわってみようかなと そばにいった そのときです

くろいものが ぐぐぐーっとうごいて 「だれだ」と こえをだしました

さあたいへん ポッケは「かいじゅうだ にげなきゃ」

はしろうとするけれど ビックリしたので はしることができません



こわいよ



こわいよ ヒョロヒョロ にげなきゃ ヒョロヒョロ  
でも こわくて ぜんぜん はしれません  
とうとう おおきなおおきな くろいものが すぐちかくにきて  
ポッケのしっぽを つかまえて いいました

「ぼくは もりのくまだよ にげないでくれよ  
ねえ きみの なまえを おしえてくれよ」

ポッケは こわかったけど  
「ぼくの なまえは ポッケ」  
と げんきよく こたえました

おしえてくれてありがとう



「そうかい きみは ポッケっていうのか  
おしえてくれて ありがとう」

それから もりのくまさんは  
「ぼくは からだがおおきいから みんな こわがって  
にげていくんだ だれも あそんでくれないんだよ  
だから いつも ひとりで ここにいるんだ」

ポッケはそれをきいて カエルさんが にげちゃったとき  
とってもさびしかったことを おもいだしました

「くまさん これからは ぼくが おともだちになるから  
いっしょにあそぼうよ」

うれしいな



くまさんは よろこんで

「ありがとう うれしいな ともだちができて うれしいな」

と ポッケを あたまのうえに のっけて おおよろこび

そうして ふたりであそんでいたら パタパタと もりのそとで おとがしました

「ポッキー ポッケはどこー どこにいるのー」 カラスのおばさんのこえです

ポッケは じぶんが まいごになって カラスのおばさんが

おかあさんを さがしにいていたことを おもいだし

くまさんに はなしました

こっちこっち



「そうだったのか ポッケ はやく いかなきゃいけないね  
いっしょに カラスのおばさんの ところへ いこう」

ポッケと くまさんが もりのそとへ はしってでていくと  
カラスのおばさんは「ポッケ ここよ こっちこっち」  
ピョンピョンとジャンプして よんでいました

そして そのうしろのほうから おかあさんが ぼっけのほうへ  
はしってくるのが みえたのです

くまさんがいいました  
「よかったね ポッケ おかあさんだよ」

「うん おかあさんだ」



とってもやさしいんだ



ポッケは くまさんといっしょに おかあさんのそばにいきました

すると おかあさんのうしろで 「うわーこわいよー」と こえがします

クンクンでした

クンクンも おかあさんといっしょに きていたのです

ポッケはいいました

「クンクン だいじょうぶだよ くまさんは とっても やさしいんだ  
ぼくたちといっしょに あそんでくれるよ」

「へーえ そうなの よかったー ぼく びっくりしちゃったよ」

ごめんなさい



「ポッケ これから おでかけのときは ちゃんと おかあさんのそばに  
いないと だめですよ」

ポッケは 「おかあさん ごめんなさい」と あやまりました  
そしてカラスのおばさんに  
「やくそく まもらなくて ごめんなさい  
おかあさんをつれてきてくれて ありがとう」と いました

それから ポッケは カエルさんに にげられて かなしかったことや  
くまさんも さびしがってたことを おかあさんに はなしました

おかあさんは  
「ポッケ くまさんと おともだちになれて よかったね」と いました



そのひから ポッケと クンクンと くまさんは  
いっしょに あそぶようになりました

==== おしまい ====